

続 学校点描

伝染する目の病気にかかり、終業式は欠席することになりました。1学期の頑張りを伝えられず心残りです。

《M中学校》

NO.8

R6. 7. 24

担当：校長

7月13日にS北地区吹奏楽コンクールが開催され、M中吹奏楽部が優秀賞で県大会出場を決めました。8月4日（日）にYぎんホールにて県大会が開催されます。M中学校の演奏時間は午後です。

7月20～22日に県内各地で県総体が開催されました。大雨と高温という大変な環境の中、地区総体を勝ち抜いた中学生が熱戦を繰り広げました。M中学校でも陸上、サッカー、卓球、柔道、ソフトテニス部男子が出場しました。サッカー部は準決勝のY三中戦は後半途中まで0-3の劣勢でしたが、終盤に怒涛の攻撃で一挙5点を入れて大逆転、決勝戦も快勝し、M上地区ではH中以来の県制覇を成し遂げました。M中学校初の夏の総体団体競技での県制覇です。また柔道のK・Kさんも準優勝に輝きました。応援に行った教育長さんも大いに感動していました。以下、県大会入賞の結果です。

サッカー競技 優勝（東北大会出場）

柔道男子個人66kg級 準優勝 K・Kさん（東北大会出場）

陸上競技 男子1年100m 第5位 I・Hさん

男子共通走高跳 第7位 W・Hさん

1 学期終業式で語りたかったこと

25日の1学期終業式の日、始業式・入学式から数えて73日目の登校日となります。その間、地区駅伝大会や運動会、もがみ未来塾と地区総体、評価テストなど、学校行事やスポーツイベント、学習への取組など、いろいろ挑戦する場がありました。そして先日の県総体ではサ



ッカー部が県優勝というM中に新しい歴史を築いてくれました。

M中学校は、“挑戦する自由”を掲げて、今年度教育活動を行っています。その一つの方策に、自分の過ごす時間はもっと自分でコントロールしてもらいたくて、1日の学校生活の流れ

を変え、下校の時間も早めました。生徒の気持ちを知るために、去年の学校生活を知っている

2. 3年生にアンケートをとりました。

「自分の時間に余裕ができた」「睡眠時間が長くなった」「部活と勉強の両立ができた」との回答が多かったです。一方で、部活動の時間が短時間になったことには不安を持つ回答もありました。「技術を向上する時間が足りない」と答えた人の割合が多かった一方、部活動が短くなったことで、「自分たちで考えて練習するようになった」と答えた人の割合も多かったです。やらされる部活動から、自分たちで挑む部活動への意識改革が始まっています。

人間の挑戦心とは、何かに追い込まれたり、不利な環境にあったときこそ発揮しやすいのかもしれませんが。そして、この挑戦心を発揮するために必要なのが、『集団の質』です。

人間の集団には、『個々のよさを伸ばしてくれる集団』と『個々の良さを発揮させない集団』の二通りがあります。「自分では挑戦しようと思っても、周りの雰囲気からやめた」とか、「人の目を気にして遠慮した」とか、そんな『個々の良さを発揮させない集団』の中では、挑戦心は影を潜めてしまいます。心理学ではこれを“集団の極性化”と呼びます。人は、集団で意思決定を行う際、個人で意思決定を行う際よりも極端な意見になりやすいという心理現象です。中学校の生徒指導で一番多いのは SNS の書き込みです。SNS は個人の問題のように思いますが、グループラインのように集団での書き込みでは次第に炎上させるような酷い書き込みになることがあります。これも“集団の極性化”がグループの中に形成されたからです。

では、人間は集団をつくらない方がよいのか？

人間は、仲間（集団）の存在によって、努力することが無理なくできるようになる、つまり「あの人もがんばっているのなら自分ももっと努力をしよう、もっとがんばろう」と実際に、仲間の存在が良い意味で刺激になることで成長をとげていきます。心理学ではこれを“社会的促進”といいます。

M中学校は、“集団の極性化”ではなく、“社会的促進”を感じる経験を多くしてもらうために、『挑戦の自由』を掲げているわけです。

2学期も生徒個々の挑戦を仲間とともに続けましょう。

目の前で戦っている最上中サッカー部。準決勝は0-3で劣勢です。3点目を決められたときは、相手校の喜びの大騒ぎの中、顔が下がり気味でしたが、また試合が再開されると「9番行ったぞ！」とか「〇〇ちゃんナイス！」とか残り時間が迫る中、最後まで諦めずに声をだしています。



やっぱり辛い時や苦しい時ほど、挑戦の気持ちが大切なこと。それを引き出すのは集団の力であること。目の前で大逆転を演じた選手たちの姿は、わたしに勇気を与えてくれます。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。